

## 第14回かわさきロボット競技大会

## NEMESISが連覇!

どのような形であれスタート台に収まればよいという柔軟な競技規則から、かわさきロボット競技大会では大小さまざまなロボットが登場する。一見すると大きなロボットのほうが有利に思えるが、小さなロボットには小ささゆえの長所がある。それを最大限に生かした「NEMESIS」が、強化された「NEMESISnxt」で、前大会に引き続いて今大会も制した。

「ロボマガ」記者・城井田 勝仁



写真1 「NEMESISnxt」で第14回大会を制した小清水大介さん。



写真2 「NEMESISnxt」は、スタート台に全身が収まるくらい小さい。



写真3 「NEMESISnxt」の足回りは、実は昨年優勝の「NEMESIS」と変わらない。



写真4 連覇の原動力になったと思われる「NEMESISnxt」の前方両端の大きなアーム。

かわさきロボット競技大会は、ラジコン型ロボットによる一対一の格闘戦である。起伏のある四角いリングの上で、相手ロボットをひっくり返すか、相手ロボットをリングから追い落とせば、勝ちとなる。

出場できるロボットへの制限は比較的に緩いが、脚と腕は必ず備えていなければならない。車輪やクローラによる移動方法は認められず、腕も角のように突き出していれば良いというわけではなく、ちゃんとアームとして機能するものが求められる。

このような大会規則から、かわさきロボット競技大会では、他のロボコンではあ

まり見られないような形状のロボットが数多く登場する。それらのぶつかり合いや駆け引きが見どころである。

第14回となる今大会は、例年通りの8月末に、川崎市産業振興会館で開催された。出場申込みは過去最高の267に達し、8月25日(土)の予選を勝ち上がった計32のロボットが、翌26日(日)の決勝トーナメントで優勝を争った。

2日間にわたって戦い続ける、この過酷なロボコンを制したのは、「(前大会優勝のNEMESISよりも)突進力が増してる」という、「NEMESISnxt」を擁する小清水大

介さんだった。見事に連覇を果たしたのである。

もちろん、この連覇への道のりは容易なものではなかった。前大会の覇者ということで、当然ながらはじめからマークされていたし、リングに追加された新たな四角い丘陵にしても、小清水さんにしてみれば「前のほうが良かった」と、マイナス面のほうが大きかったのである。そんな中で、冷静さを欠くことなく、2日間にわたり戦い抜いたのである。

## 【白熱の決勝戦】 NEMESISnxt VS やまだ一ん無双剣



写真5



写真6



写真7